

ご協力ありがとうございました！

学校自己評価アンケートがまとまりました！

本校では、毎年2学期末に生徒の皆さんや保護者の方々からアンケートにお答えいただき、教師自身もアンケートに答え自己を振り返るとともに、学校教育の一年間の反省や次年度への方向性を考えさせていただいております。

本年度も、「学校づくりビジョン」で学校教育目標や具体的な重点目標をお知らせし、教育活動に取り組んで参りました。それぞれの結果を踏まえて改善すべき点をはっきりさせ、次年度への教育活動に生かしていこうと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

各パーセンテージのグラフの横に質問項目（数字は自己評価の数字です）を載せ、考察を最後に載せさせていただきました。A～Dの評価は次のようになっています。

A：よくあてはまる（そう思う）

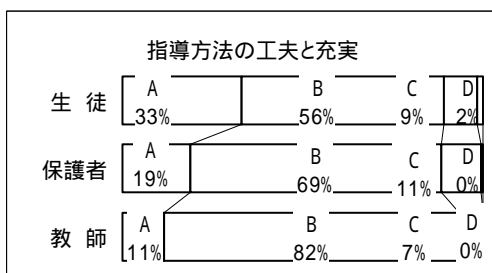
B：あてはまる（すこしそう思う）

C：あまりあてはまらない（あまりそう思わない）

D：あてはまらない（そう思わない）

学力の定着と充実

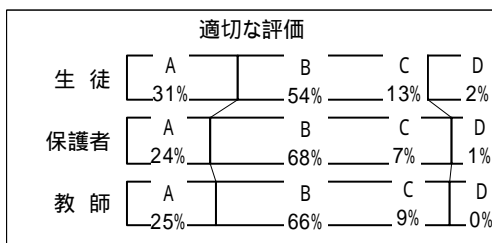
～ はアンケート項目です。



生徒…授業をていねいに分かりやすく教えてくれ、楽しく授業を受けている。

保護者…学校は、授業の工夫をしている。

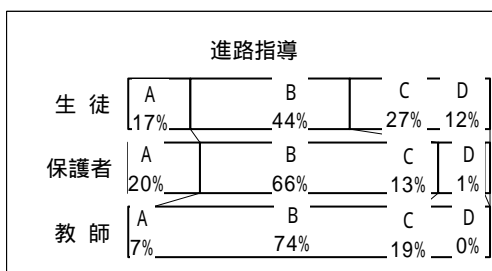
教師…小集団活動により、ともに学び合うや授業の工夫をし、生徒に基礎・基本を大切にしたり、丁寧でわかりやすい授業を行っている。



生徒…先生は、学習での努力や成果をきちんと認めてくれる。

保護者…学校は、学習における子どもの能力や努力、学力を適切に評価している。

教師…毎日の学習における生徒の能力や努力、生徒をのばす評価をしている。



生徒…あなたは、将来の進路について学習し、それらについての情報を学校から知らせてもらっている。

保護者…学校は、入試情報や職業について、将来を見通した進路指導に努めている。

教師…生徒一人一人の興味、関心、適性に応じた進路選択ができるように3年間を見通した進路指導を行っている。

学力の定着と充実について、ここ3年間の比較を見ると、生徒・保護者・教師ともに満足度が年々上がり高い評価をいただいております。それは、各教科において、電子黒板や実物投影機等のICTを活用する授業を多くしたりティームティーチング(TT)を取り入れる教科数を

多くしたりすることで、理解力の高い生徒や授業内容の理解に時間のかかる生徒に細やかな指導ができるようになっていくことが高い評価につながっていると考えています。

各教科においては、毎時間、授業開始時に復習の小テストや語句などの確認プリントによる繰り返し学習を行ったり、家庭学習の定着を図るために宿題の出し方等の工夫をしたりしてきました。

また、学び合い学習を進めるために3年前より全教育活動において小集団を活用した学習活動を取り入れてきました。さらに、基礎学力の育成のために、1・2年生は毎日帰り学活時に脳トレ時間を設け漢字や計算のプリント学習を継続させることで脳の活性化を図り、3年生は同様の時間帯で進路補充学習を設けて学力の向上を図ってきました。これらの取り組みにより、生徒が意欲的に学習に取り組む姿や小集団で活発に活動する姿、基礎学力の向上に真剣に取り組む姿が多くみられることから、教師や生徒がその成果を実感していることも高い評価につながっています。

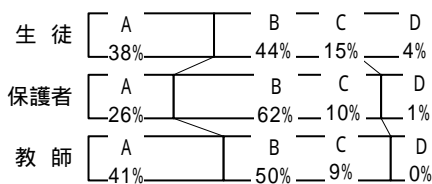
しかし、一層の学力向上を図るためには、各小学校と連携した9年間を見通した学力向上の取り組みが必要です。併せて、家庭学習の充実も重要な取り組みの一つと位置づけ、平日や週末の宿題の出し方を工夫したり、各家庭と連携をとりながら家庭学習の定着を図りたいと考えています。

適切な評価においては、保護者から92%という高い評価をいただきました。それは、毎年、各教科のシラバスを生徒および保護者に示し、評価の観点および評価の方法を明確にしていることが高い評価につながっていると考えられます。定期テストや確認テストの点数や提出物の善し悪しだけでなく、毎時間の学習活動への参加状況や各单元における思考および技能や表現なども大切にして生徒や保護者の方々が納得できるように取り組んできました。特に、教科部会を充実させ年間を通した授業計画や評価方法、授業資料の工夫などについて研修を深めました。しかし、生徒の15%の評価が低いことを重要なことと捉えて、生徒が一層意欲的に取り組めるような授業の工夫と評価のあり方についてさらなる研修を深める必要があります。

進路指導については、本年度から県立高校入試に推薦制度がなくなり、県立前期選抜の受検者が増加したことから、不本意な結果になった生徒が増えました。昨年度から3年生へ配布している進路説明会の資料を、1・2年生の教室にも配布することにより早い段階から進路を意識させてきました。特に2年生では、県立高校の調査書の内容に関する学習や3年生の進路担当者が直接2年生に、受験に望むための心構えや成功例などを説明する機会を設けてきました。中学卒業直後の就職先はほとんどない現状から、高校進学への意識付けをしています。本校では、1年生時の福祉体験学習と身近な職業調べ、2年生時の職場体験学習、3年生の修学旅行の際の専門学校体験学習などのキャリア教育の視点を大切にした3年間の計画的な進路指導を今後も継続し、生徒自らが将来を見据えた進路選択をできるようにしたいと考えています。

心の教育の推進

いじめ・差別を許さない仲間づくりの推進

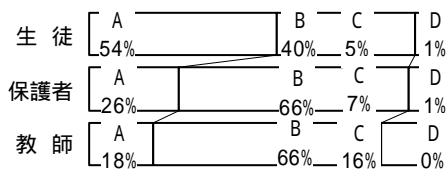


生徒...先生は、いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる。

保護者...学校は、いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。

教師...いじめ・差別を見のがさない仲間づくりに努めている。()

心を育む教育の推進



生徒...学校では、命の大切さや人権を大切にし、差別をなくすための学習が実施されている。

保護者...学校は、豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切にする子どもを育てるようにしている。

教師...豊かな心を持ち、命の大切さや人権を大切にする生徒を育成するために、道徳人権教育の推進に努力している。()

「いじめや暴力などの問題にきちんと対応してくれる」の生徒の評価が82%となり、年々高くなってきています。授業中だけでなく休憩時間や部活動の時間も、教師が生徒の目線に立ち、ふれあう時間を多く持つようにして生徒が安全で安心できる環境づくりをしてきました。

また、教師が生徒一人ひとりを行う定期的な教育相談が充実したことにより生徒の考えや思いを知る機会が増えたことや友人関係などを知ることによりいじめやトラブルの未然防止につながっています。

さらに総合的な学習の時間や学級活動で、キャリア教育の一環とした構成的エンカウンターを活用して親和的な人間関係を構築するとともに絆を深くする取り組みや豊かなコミュニケーションを増やすためのソーシャルスキル・トレーニングなどを継続して行ってきました。

しかし、約20%の生徒の評価が低い現状があることを重要なことと捉えて、生徒一人ひとりが自分の思いをさらに表現できる教師との関係作りおよび道徳教育や人権学習を中心として心の教育の推進をさらに充実したものにする必要があると考えています。

ほとんどの生徒は「いじめや暴力はいけない」と理解しているものの、場合により相手に対し粗暴で傷つけるような言動をとる生徒がいるのも事実です。学習していることを自分たちの生活に活かすという目的意識を持たせ、実践的なものになるような指導を計画的、継続的に行うことが必要です。他人を思いやる心や自尊心を育む教育の推進を重要な課題として取り組んでいきたいと思ひます。

また、不登校の生徒については、その要因も状況も一人ひとり違うことから、家庭訪問等により保護者ととも生徒に応じた対応を心がけ、「ふれあい教室」や北勢児童相談所などの外部機関との連携により一人ひとりの生活習慣の確立および進路を保障したいと考えています。

健康・安全教育の徹底

豊かな人間性の育成				
	A	B	C	D
生徒	38%	48%	12%	2%
保護者	40%	52%	8%	1%
教師	45%	50%	5%	0%

生徒...先生は、生徒とのふれあいを大切に
し、親身になって接してくれる。

保護者...学校は、挨拶に心がけ、子どもとの
ふれあいを大切にし、子どもが明るく
楽しい学校生活を送れるようにしてい
る。

教師...挨拶を心がけ、生徒とのふれあいを
大切にし、生徒の心に寄り添い、生徒
が安心して、明るく楽しい学校生活
を送れるように努力している。()

社会性を身につける				
	A	B	C	D
生徒	47%	43%	8%	2%
教師	45%	50%	5%	0%

生徒...あなたは、毎日挨拶をし、コミュ
ニケーションを大切にして、学校生活
を送っている。

教師...挨拶を心がけ、生徒とのふれあいを
大切にし、生徒の心に寄り添い、生徒
が明るく楽しい学校生活を送れるよ
うに努力している。

部活動				
	A	B	C	D
生徒	60%	27%	9%	4%
保護者	39%	48%	10%	3%
教師	28%	42%	26%	5%

生徒...あなたは、部活動にまじめに参加
し、目標を持って活動している。

保護者...学校は、部活動で適切な指導を行
い、明るく楽しいクラブづくりに取組ん
でいる。

教師...部活動で適切な指導を行い、明るく
楽しい中にも、厳しさのあるクラブづく
りに努めている。()

年々学校が落ち着いてきたことで、生徒が安全で安心して生活できる環境が整ってきています。また、ほとんどの生徒が正しい服装を着用し、挨拶も元気にできています。生徒と保護者の評価が年々高くなり、本年度は生徒86%、保護者92%の高い評価をいただいています。生徒や保護者が学校の取り組みに対して理解が広がるとともに協力していただけるようなつながりが本物になってきていると考えられます。

今後も、よりよい学校にするために、学校全体で共通理解を図り、毎学期に服装や遅刻点検等を行いながら生活習慣や規律の確立をめざして取り組みを継続する必要があります。

また、全教育活動において生徒が主体的に活動できる機会を増やすことにより、生徒会を中心とした自治活動が推進され、自分たちの学校生活をよりよくする方法を考えるなどの自治能力を発揮する活力のある生徒集団をすることが重要であると考えています。

毎年、4月に全校生徒に交通安全指導を行うとともに1年生で交通安全教室を開き、自転車

のマナーなど交通規則など生徒一人ひとりが真剣に考えるように指導をしています。しかし、日頃からマナーの向上に取り組んでいるものの、登下校中の自転車の事故が昨年度より多く発生するなど、少しの気のゆるみが危険につながったケースがありました。本年度の12月に四日市南警察署から「交通安全推進活動モデル校」の指定を受けたこともあり、安全委員会を中心として一層の交通安全指導を行いたいと考えています。

部活動においては、年々活動が活発になるとともにキャプテンを中心とした自主的な活動も定着してきています。運動部も文化部も全国大会や東海大会にまで勝ち進んだ部もありました。また、学校外でスポーツ活動等をしている生徒は社会活動部に所属しながら学校外で活動をしています。本年度は、生徒と保護者ともに87%の高い評価をいただいています。

今後は、一部の生徒ではあるもの部活動の意義を理解できなかったり部活動を続けることができない生徒がいることから、部活動を一層活発にするとともに3年間継続して活動できる環境づくりを工夫する必要があります。

地域・家庭・保護者との信頼関係の確立

	A	B	C	D
生徒	44%	32%	14%	10%
保護者	36%	55%	8%	1%
教師	28%	49%	19%	5%

生徒...あなたは、「南風」や「学年通信」等を家の人にきちんと渡している。

保護者...学校は、保護者の相談・思いや願いに適切に誠実に対応し、学校の様子を保護者に「通信南風」等によく伝えている。

教師...保護者の相談・思いや願いに適切で誠実に対応し、学校の様子を保護者に「たより」や家庭訪問等で連絡している。()

	A	B	C	D
保護者	38%	55%	6%	1%
教師	26%	56%	12%	7%

保護者...「フリー参観や行事」を通し、地域に学校を開き、保護者等の人たちが学校へ来やすくしている。

教師...「地域に開かれた学校づくり」を目指し、地域や保護者の人たちとの連携を大切にしている。()

学校は保護者との信頼関係を向上するために、「南風（学校便り）」、「学年通信」、南中ホームページを通じて、学校の様子や生徒の活動内容をお知らせしています。2学期にホームページをリニューアルしたところアクセス数が急増しました。また、「すぐメール」を活用して各行事のお知らせやお願いの発信をしています。すぐメールは、台風や地震時の緊急連絡を発信するツールとして市内のすべての公立学校で活用していますが、本校の現在登録状況は95%程度でありさらに100%に近づける必要があります。

また、学期毎にフリー参観を実施して、保護者や地域の方々に生徒の様子や学校の環境を見ていただく機会を増やしてきました。保護者からは、授業参観と違い、授業中の生徒の様子だけでなく休憩中や清掃時の様子や他の学年の様子なども見ることができると好評をいただいております。また、学校づくり協力者会議の委員、民生委員児童委員、主任児童委員、保護司など地域の方々や幼稚園、小学校の先生方にも来ていただいております。

これらの取り組みに理解が広がったことで年々保護者の評価が高くなり、本年度は91%の高い評価をいただきました。

他には、2年前から保護者や地域の10名以上の方が、図書館ボランティアとして活動していただいています。図書館の開館業務、書籍の整備、生徒への読み聞かせ活動などにより、図書館の利用生徒数や貸し出し冊数が急増しました。そのことが、「朝の読書」と関連してすばらしい読書活動になっています。

信頼のある学校づくりは、生徒や保護者はもとより地域との協同も大切です。教職員が生徒一人ひとりを理解し、保護者との信頼関係を構築しながら、地域の各行事に参加することにより、地域の皆様とつながりを強くし、地域とともに生徒の健やかな成長を支援していく必要があると考えています。引き続き一層のご理解とご協力をお願いします。